本年度学校教育の努力点

（１） 主　題

自分で考え、みんなと共に、
夢中で学び続ける児童の育成　（２年次）

（２） ねらい

昨年度、本校では「自分で目標を決めて、自分で学習を進めていくことができる児童」を目指し、努力点の実践を進めた。各教科・領域における実践では、自由進度学習を取り入れたり、ルーブリック評価を活用したりという工夫が見られた。その結果、子どもたちが自分の興味・関心を生かして主体的に学習に取り組んだり、明確な目標をもって学習に取り組んだりする姿が見られるようになってきた。また、授業の始めの「目標の設定や確認」、終末の「振り返り」に焦点を当て実践に取り組んだことで、子どもたちが見通しをもって学習に取り組んだり、適宜学習を調整して取り組んだりという姿も見られるようになってきた。ただ、その一方で、他者との考えの交流や話合いを通して多様な意見や価値観に触れたり、多面的・多角的に考えたりすることには課題が残った。

そこで、今年度は、昨年度の実践の成果を生かしつつ、本校が設定した三つの学びの姿の中の「いろいろな人と学ぶ」に重点を置き、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指し、実践を進めていく。

三つの学びの姿

自分で決める

○　学習に見通しをもち、適宜、状況を振り返り、調整しながら学習を進めていく。

いろいろな人と学ぶ

○　学校内外の多様な人と出会い、互いに触発し合いながら互いの考えを深め、発展させていく。

楽しんで学ぶ

○　子どもたちが夢中になって、自分なりの問いを立て、自分なりの方法で、自分なりの答えにたどり着くことができるような探究的な学びを進める。

目指す児童像

目標に向かって、互いに学び合うことができる児童

目指す児童像に迫るためには、課題設定や教材、話合いの形態やICT機器の活用等の工夫により、子どもたちが他者と関わり合い、学び合うことの必要性を感じたり、その効果を実感できるようにしたりすることが大切である。それにより、子どもたちが学習の目的や内容に応じて、相手や方法を自分で考えながら、主体的に他者と関わり学んでいく姿につながると考える。また、学び合う対象を学級から学年、学校、地域、社会へと広げていき、多様な人と学び合うことができるようにすることも有効な方法で

あると考える。年間を通じて、こうした実践に取り組むことで、協働的な学びと個別最適な学びの双方を往還しながら一体的に学ぶことを実現し、目指す子どもの姿に迫るとともに、「主体的・対話的で深い学び」につなげていくことができると考える。